
昼下がりの尾行/銀魂/沖神？

槻夜 七瀬

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

昼下がりの尾行／銀魂／沖神？

【コード】

N0589F

【作者名】

槻夜 七瀬

【あらすじ】

最近機嫌の良い神楽を不審に思った銀時たちは彼女の後をつける
じやじ...

(前書き)

『夕暮れのアイス』を読んでからこちらを読んで下さると意味が解るかと思えます。

沖神と書いてありますが視点は銀さんと新八からです

PV数1000人突破ありがとうございます！

全て皆様のおかげです

これからも宜しく願います^^

それはある昼下がり

「じゃあ散歩、行ってくるアルよー」

神楽が万事屋を出たのを見送ると、銀時は言った。

「ねえ、新八くん」

「…何ですか銀さん」

「最近さあ、神楽が変だと思っただけ」

洗濯物を取り込んでいた新八は、きょとんとした顔で銀時を見る。

「……は？」

「だからー、あいつ何か変でしょ、俺がジャンプ頼んだ日から
ふう、と溜め息をつくくと、新八は眼鏡の位置を直す。

「ジャンプ頼んだ日って…いつのことですか。結構ありますよ、ジ
ヤンプ頼んだ日」

「あの日だよ、あの今年一番暑かった日」

後でニュースを見て知った話だが、あの日は今年の夏、最も暑かつ
た日らしい。

「ああ、確かに暑かったですよね。……そういえば帰ってきてから
上機嫌だった気がしますね」

「あんだだけ面倒がってた使いつ走りも自分から行くようになったよ
な」

「…何か良いことでもあったのかな」

「あいつにとつての良いことって何だよ？ 酢昆布が落ちてたとか
？」

「好きな人が出来たとか………え？」

新八の言葉に、銀時は「ないない」と手を振りながら苦笑する。

「それはねえよ新八くん。大体、あんな怪力チャイナ娘を相手にす

るよーな男なんて」

「あ」

思い当たる人物が一人。

二人の顔がスツと青ざめた。

「いや、でもあの人はそっちの『相手にする』じゃないですし」
「そうそう。どっちかつつーと、取っ組み合いの方」

銀時は自分がサラツと言った一言に混乱する。

「取っ組み合いって……」

「銀さん！ やめましようよ今までは少しも気にしてなかったのに。ほら、姉上と九兵衛さんの時だって……」

『その女やんのは』

「え、嘘、やつぱりあの人！？ や、やばいですよ銀さん。こつなつたら追いかけましょう！」

「それは良い考えだ新八くん！ そーと決まればレッツゴーだ！」

「」

軽やかに歩く神楽を、銀時と新八は心配げにみつめていた。

「…何処に行くんでしょう」

「さあな。だがこつちの方向は河川敷だな」

「サラツと河川敷まで来ちゃいましたけど、どうします、銀さん」

「どうしますも何も、最後まで尾行するしかねえだろ」
物陰で二人がこそこそ話していると。

「わッ…」

「！ 銀さん、今の声！」

「神楽！？」

バツと立ち上がると、そこには傘を武器にはね回る神楽がいた。

「……あ？」

呆然と見る銀時。

「何アルか！ いきなり手え引つ張つて、喧嘩売るアルか！？」

「誰が喧嘩なんて売るかよ」

「ふっざけんな！ お前に手掴まれたらビックリして心臓止まるか
と思つたヨ！」

激しい攻防戦。

神楽にそう言われた瞬間、喧嘩の相手 沖田は一気に間合いを詰
めた。

「大体、この前はあ…っ」

「…！！！！！！」

万事屋の三人は一齐に声にならない叫びを上げる。

「んんん ……放すアル！」

重ねていた唇を放すと、沖田は銀時たちの方を向き、自らの唇をペ
ろりと舐めて微笑した。

「どうせなら旦那方にちゃんと見せつけようと思つたんでイ。こい
つは俺のモンだつて」

わなわなと震える銀時は叫ぶ。

「てめえっ…俺達がいることを知っててやりやがったなあ…！！？」

「だつて、これ以上ない機会でしょう。これで公認の仲つてことで」

「は、はあアアアアアア！？」

新八が声を上げた。

「俺は認めねえぞ！ あんなゴリラやマヨラーと親戚になるなんて絶対嫌だアア！」

「あれ、旦那、このチャイナの親父だったんですかい？」

「畜生オオオむかつく！ 親父で良いけど何か腹立つ！」

その様子を見ながら、神楽は笑った。

「私ムサイ男どもの喧嘩は見たくないネ。さきに帰るアル」

「ちょ、か、神楽ア！？ 俺は認めねえから！ 親戚なんて絶対嫌だアアアアアア！」

叫んだ銀時の声は赤く染まり始めた空に消えていった。

(後書き)

あいたー…。前書いた沖神の続きを書こうと思ったのに少ししか出てこない沖田さんorz 楽しみにしてくださいっただ方すみませ
ん…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0589f/>

昼下がりの尾行/銀魂/沖神？

2010年10月13日05時29分発行